

スポーツ史研究の史学史的考察 ——アメリカ、中国における研究動向を焦点として

スポーツ文化研究領域
5019A023-1 左 庚

研究指導教員:川島 浩平 教授

要旨本文

1、研究背景

スポーツ史研究は世界各地で長い伝統を有している。特に、ドイツ、フランス、イギリス三国が早くからスポーツ史研究に着手し、方法論を成熟させ、研究者間の論争を通じ、様々な学派を構築してきた。

アメリカ合衆国（以下アメリカ）で活躍するスポーツ史学の権威マーク・ダイヤソン(Mark Dyreson)は、アメリカにおけるアメリカスポーツ史研究には、スポーツ・ヒストリー (sport history) とヒストリー・オブ・スポーツ (history of sport) という二つの大きな流れがあり、これらの流れが出現し、交わり、収斂した結果、現在に至ったとする解釈を提示している。本論ではこの史学史的解釈を、ダイヤソン史学史観と呼ぶものとする。現在のアメリカスポーツ史研究では、これら二つの流れは、出自が異なるとはいえ統合されている。1970年代以来、スポーツ・ヒストリーとヒストリー・オブ・スポーツは、方法論、対象、資料、コミュニティ、さらにはアカデミックな貢献の点で共通の道を歩んできた。しかしなお、両者の間には、目的の点で相違する要素も認められる。

ダイヤソン史学史観とは、スポーツ史研究の学説史（史学史）を、スポーツ・ヒストリーとヒストリー・オブ・スポーツという、学術的背景や研究の方法論と理論などに基づいて規定される研究者のアイデンティティによって区分することで構築される史学史観である。スポーツ・ヒストリーとは、体育学やスポーツ科学の立場からのスポーツ史研究であり、スポーツの教育面、あるいは具体的なスポーツの競技種目の変容に焦点を置く歴史研究である。スポーツの発祥、発展などに焦点を合わせており、

自然科学系の研究者と連携する傾向がある。この分野の研究者はスポーツ科学系の学術的背景を持ち、実践的な経験を積んでいる場合が多い。これに対して、ヒストリー・オブ・スポーツは伝統的な歴史学に由来し、スポーツと政治、文化、社会などの関係性に焦点を置く歴史研究である。ここでは歴史学の立場からスポーツを取り上げ、解釈を構築する。この分野の研究者は体育学部以外の、とくに文科系あるいは社会学系の学問分野の出身が多い。

アメリカにおけるアメリカスポーツ史研究において提唱されたダイヤソン史学史観は、はたして中国のスポーツ史研究体に有効といえるだろうか。また、アメリカのスポーツ史は、中国の研究者にいかなる影響を与えただろうか。本論はこれら二点を分析し、解明することを目的とする。

2、本研究の構成及び概要

第1章 アメリカ合衆国におけるアメリカスポーツ史研究

本章は、史学史的観点から20世紀初頭からのアメリカにおける歴史研究、スポーツ史研究、そしてアメリカスポーツ史研究を整理し、その上でアメリカスポーツ史研究誕生の経緯と、その発展の過程を説明する。さらに、アメリカスポーツ史研究に関するダイヤソン史学史観を紹介する。

スポーツ・ヒストリーとヒストリー・オブ・スポーツが、ダイヤソン史学史観を形成する。ヒストリー・オブ・スポーツ研究では、伝統的な歴史学研究に立脚し、政治、経済、文化など他学術分野との交流があり、また階級、人種、ジェンダーなどアイデンティティのカテゴリを方法論で重視する場合が多い。史学史的には、対象とする時代が異なると、研究テーマも異なるこ

とが多い。スポーツ・ヒストリー研究では心身の鍛錬を目的とする体育、とくに教育の一環としての学校体育が主要な場であり、スポーツの内包的性質、そして文化的な影響に着目する場合が多い。その視野は、実践的な活動としてのスポーツそのものを捉え、ここから歴史をみる立場をとる場合が一般的である。

第2章 中国におけるスポーツ史研究

中国におけるスポーツ史研究は100年以上の歴史を有している。しかし戦争や社会不安などの要因により、中断されていたことがある。本格的な発展は1980年の改革政策後に始まる。以来中国におけるスポーツ史研究は、現在まで約40年の歴史を有する。本章は、中国におけるスポーツ史研究の誕生や発展を説明し、現在における中国スポーツ史研究の状況を分析する。研究方法は中国最大級学術データベースの中国知網(CNKI)である。このデータベースによる検索から、175本のスポーツ史研究の事例を入手した。文献の著者とその研究歴、発表時期、研究対象国・地域などによって分析を行なった。

その結果、中国スポーツ史研究者は歴史家出身が多数派を構成してきたことが判明した。しかし、2010年以後は、スポーツ科学を専攻し、スポーツ・ヒストリー研究を指向する研究者傾向の増加傾向が認められる。研究機関は主に三種類である。政府のスポーツ文化部門、体育・スポーツ系大学と師範大学の体育・スポーツ学部である。時期別に研究発表数を見る場合、三つの時期に区分することが有効である。第一に、1980～1989年まで。この時期は研究活動の復興期として位置付けられる。第二は1990～2007年まで。この時期は、研究活動の低迷期である。そして第三は2008～現在まで。この時期は高度発展期である。研究対象国・地域から見ると、中国を対象とする研究が70%以上を占め、圧倒的な多数派を構成している。これは、中国は古来自国の歴史を重視する伝統があることもその一因である。初期のスポーツ史研究者は、ほとんどが歴史学部出身である。これら研究者は、歴史学の方法論によってスポーツに取り組んだと

いえる。やがて外国のスポーツ史研究が増加傾向を見せ始めた。

第3章 中国における二つの歴史研究／歴史家集団

本章は、スポーツ・ヒストリー研究とヒストリー・オブ・スポーツ研究の観点から、中国におけるスポーツ史研究を分析する。中国スポーツ史研究では、スポーツ・ヒストリーとヒストリー・オブ・スポーツ両者の流れがあることがわかった。しかしながら、スポーツ・ヒストリー研究の比率は低い。第一期は14.3%(4/28)、第二期は15.7%(8/51)、第三期は28%(27/96)であり、増加傾向を示している。特に2010年後にスポーツ科学を専攻する若年研究者が増え、従来ヒストリー・オブ・スポーツで取り上げられなかったテーマや方法論に取り組む傾向が始まる。

本章の後半では、中国人研究者と北米スポーツ史学会(NASSH)の接点に注目する。この接点での研究では、中国とアメリカの関係や、さらにはグローバルな視点から研究動向を把握しようとする姿勢が顕著である。

最後に、アメリカにおけるアメリカスポーツ史研究が中国におけるスポーツ史研究に及ぼした影響について考察する。

主要文献

- [1] Mark Dyreson (2007). *The United States of America, Routledge Companion to Sport History*.
- [2] Allen Guttman (1979). Who's on First? or, Books on the History of American Sports, *The Journal of American History*.
- [3] 郝勤 (2020) 「百年に渡る中国体育史の叙事構造と史観推移」, 『成都体育学院学报』.
- [4] 王邵励 (2018) 「スポーツ史の挑戦と機会-北米スポーツ史学会の「プレジデント・フォーラム」に対してのクリティカルなレビュー」, 『上海体育学院学报』.